

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホームみどりの里 西ユニット		
所在地	岩手県九戸郡洋野町種市40-22-2		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393100060&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が豊かで自然に囲まれた環境にある。海も近く、海沿いの道を気持ちよくドライブできる。地域の方々のご協力により、敷地内に畑を作っている。利用者も職員も一緒に畑仕事を行い、交流を図っている。
また、職員は業務より利用者との関わりを優先できるよう、支障がでた場合は常に話しあう場を持っている。利用者にとって、ここでの生活が安心して穏やかなものになるよう、日々取り組んでいる。

東・西2ユニットのグループホームであるが、利用者が自由に行き来できる構造となっている。建物は天井が高く、開放感のある明るい空間が広がっている。介護保険対象外の宿泊に利用できる部屋があり、その運用に伴い夜勤職員が3名となっており、安心感をもたしている。浴室には特別入浴の機器が備えられており、車いすの利用者でも安全に入浴できる。昨年と比べ、地域の方との交流が増えているが、これは運営推進会議において地域の情報を教えてもらう機会が増え、その活用が行われたことによる。開所して1年9ヶ月の新しい事業所であるが、利用者・職員ともに笑顔にあふれ、ここでなら「自分らしく安心できる生活」が出来そうな雰囲気が感じられる。様々な課題に対して、前向きに皆で取り組もうという姿勢が見られ、今後どのようなグループホームを創っていくのか楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を共有し、実践につなげるよう努めている。	施設長と管理者の提案を受けて「ゆったり、のんびり、自分らしく安心できる生活」を理念として決めている。その理念について、全職員の理解を図るために話し合いを行った。先月、「ゆったり」という理念を実現させるために、職員がどのようにしていけば良いのかの実践目標について話し合っている。	理念に基づいたケアの実践をどうすべきかについて具体化の一步を踏み出している。今後も理念のすべての言葉について同様の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校行事や、地区のイベントに参加している。地域の方のご協力で敷地内に野菜を作り、交流を図っている。	地域の方と一緒に野菜を作り、収穫した野菜を夕涼み会のバーベキューと一緒に食べながら交流を図っている。小学校の運動会や学習発表会、児童館の踊り等を見学している。自治会にも加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学に来られた方には、希望があれば認知症についての説明をパンフレット等で行い、認知症の人の理解や支援につながるようしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出たサービス向上に向けての改善案は、事業所内で検討・実践を行い、次回の会議にて報告している。	利用者や待機者の状況、地域との関わり、行事、苦情等について事業所から報告を行い、意見を頂いている。委員からの様々な視点での助言により気づかされることも多い。また、利用者の昔の様子や地域の行事の情報を頂き、運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、役場担当者や、地域包括支援センターと連絡を密にとり、状況を報告。大いに協力して頂いている。	毎月のケア会議に出席し、情報交換を行っている。新規申込者の情報を頂いたり、成年後見制度について相談したり、介護保険の更新調査時には定期的に訪問がある。福祉課の職員も年に数回訪れる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関は施錠していない。疑問が出た時は、その都度確認しあい、身体拘束のないケアを目指している。	「動きたいように動けない」ことを拘束と捉えている。頻繁に外に出る利用者がいた時に、職員から玄関に鍵をかけてはどうかとの声が出た。その際に、鍵をかけることの意味、そのことがどういう影響をもたらすのか、どうしたら良いのかを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。日常のケアでの疑問点は、定例会議等で話し合っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームみどりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を1名の方が利用されている。成年後見人制度についても対象者がおり、活用に向け支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭で説明を行い、理解・納得を得ている。相手の立場になって、丁寧でわかりやすい説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望は、日常の関わりの中で把握するよう努めている。運営推進会議や面会時、サービス担当者会議の際に、家族の意見・要望を聴いている。	食事内容や入浴の時間についての希望が出され、職員で共有し、話し合っている。運営推進会議でも冬場に外に連れて行って欲しいとの希望が出され、検討を行った。家族との面会の際には「何かありますか」と聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議と交換日記を活用している。管理者も必ず参加・検討を行う。必要時は、代表者へつなげている。	日々の業務における職員の気づきを書き留める交換日記を活用し、情報の共有を図っている。定例会議においても、業務内容の見直しをして利用者と触れ合う時間を多くしたり、職員間のコミュニケーション不足を補うために共有したい事項を掲示したりと工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすくやりがいを持てる職場を目指している。代表者・管理者は職員の希望する勤務条件にできる限り応えている。また、処遇改善交付金の活用、資格手当・夜勤手当・賞与の支給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の参加を促し、研修結果を報告し合っている。内部研修も随時行っている。希望があれば、働きながら資格取得できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会に加入し、様々な情報を頂きながらサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者本人の不安や要望を伺い、それを職員で共有してからのサービス開始としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談を行い、入所を希望した経緯や、これから望むことを聴いている。入所してからも家族の協力は必須なので、家族との関係は大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の中から、必要としている支援を見極めている。担当の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとも相談しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の場であることを第一に考え、調理や後片付け、清掃や洗濯等を職員と協力して行えるよう、日々工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっても、家族の協力は大切なものであり、必要時は電話で相談する、来訪時に伝える等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出・外泊が行えるよう、家族に協力して頂いている。また、家族だけでなく友達や知人の方も気軽に来て頂けるような、明るく開放的な雰囲気作りを心掛けている。	近所の方が、毎週面会に来る利用者もいる。理・美容は家族が付き添って、馴染みの所に出かける利用者は5名位である。お盆には6、7名が自宅に戻っている。自宅近くをドライブしたり、馴染みのある海辺や紅葉を眺める外出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々の生活や、その時の心身の状態の把握に努めており、必要時は、職員が介入・橋渡しをしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームみどりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、家族より経過を確認し、相談や支援を行ってある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案にあたって、本人の思いや意向を確認している。また、日々の生活の中での把握に努めている。	どうい生活望むかを本人・家族に聞いたり、日常の関わりの中で職員が気づいたことを毎月の定例会で情報交換を行っている。利用者ごとの担当を決めており、担当を中心に居室の様子を確認したり、今までの経過の中での変化を読み取り意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より話を伺ったり、担当のケアマネジャーより情報提供をして頂いたりして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の申し送りで利用者の現状を確認している。本人や家族の気持ちや意向の変化にも柔軟に対応できるよう、日々把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を確認し、計画作成担当者と担当介護職員が、介護計画の原案を作成。サービス担当者会議で更に検討し、完成させている。	ケアマネジャーが担当の職員から聞き取りを行いながら、介護計画の原案を作成している。それを、管理者、家族、本人に入ってもらい会議を行い、検討している。会議の中で、家族にやって欲しいことを頼む(お願いする)ようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が生活の様子、気付いたこと、ケアの実践を個別の記録に記入。3ヶ月単位で介護計画をモニタリングし、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出・外泊時の送迎は、原則家族に対応して頂くこととしているが、家族に事情があり困難な場合、できる限りこちらで対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームみどりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で委員の方々に意見を頂いている。また、地域のイベントや学校行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院に通院している。健康状態で気になることは家族へ伝え、受診時にかかりつけ医に相談して頂いたり、受診に立ち会ったりしている。	受診の付き添いは家族が行うことにしているが、出来ない時は職員が行っている。種市病院の往診を受けている利用者が8、9名いる。距離的に、かかりつけ医に通うことが出来なくなり受診先を変えた利用者は1名のみである。家族の来訪時に、受診内容を報告して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員として勤務している。身近で同じ仕事をする為、他の介護職員は相談しやすい環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はなるべく面会へおもむき、病院関係者との情報交換や相談に努めている。退院後のケアについても、助言を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化がみられてきた場合は、本人、家族と今後の方針について話し合っている。かかりつけ医にもできる限り協力を頂いており、チームでの支援に取り組んでいる。	病状が不安定ではあるが、ここで過ごすことを望んでいる利用者があり、今後の病状や緊急時の体制について医師・家族と話し合いを行った。職員間でも勉強会を行い、職員の不安を少なくするための方策について話し合っている。東・西のユニット合わせて夜勤職員が3名おり、安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を月に一度の定例会議で確認しあっている。また、急変の恐れのある利用者がある場合は朝・夕の申し送りでもシミュレーションし、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員の立会いにて通報訓練・避難訓練を行っている。運営推進会議には消防団の方にも参加して頂き、災害時の協力をお願いしている。	消防署立会いの下、火災避難訓練を2回行った。災害マニュアルを作成し、それに基づいた訓練であったが、通報訓練に職員の戸惑いも見られ、今後の課題が明らかになっている。2ユニット合わせて車いす使用の利用者が8、9名おり、安全な避難誘導が課題となっている。	昨年の課題として取り組んだが、消防団や婦人消防協力隊への参加の呼び掛けにとどまっており、一緒に訓練はまだ行われていない。全員が安全に確実に避難することを目指して、訓練の積み重ねを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者の尊厳を守るよう心がけている。適切な声掛けができるよう日々工夫し、対応している。	利用者に失礼のないような声掛けを目指している。利用者の状態に合わせた声掛けやタイミングを工夫している。利用者同士の関係も、気持ち良く一緒に過ごすことができるように、場を替えて気分転換してもらったりと細やかな配慮が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人から話を伺ったり、示す態度や表情が何を意味するのかを考えたりして対応にあたっている。利用者が自分の気持ちを表現しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく利用者のペースで一日を過ごせるよう取り組んでいる。利用者のその日の気分で、入浴や、お散歩、畑仕事や外出ができる限り行なえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一に、好みの服装で服装で過ごしてもらっている。愛用の化粧品がある方は、使い続けていけるよう、家族にお願いして常備して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に利用者と職員が、協力して食事の準備・調理・後片付けを行っている。一人ひとりの力に合わせて役割を見つけ出し、男性の利用者も準備や後片付けに参加されている。	利用者の好みを聞き取りながら職員が交代でメニューを作っている。食材は注文により配達してもらっている。利用者の状態に合わせて野菜を切ったり、お皿を並べたり、拭いたりといった作業を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や何を残したのかを毎食確認している。苦手な食べ物や禁忌食がある方にはバランスを考えて代替品も用意している。また、水分も時間を決めて全員に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアをすすめている。一人ひとりに合わせた声掛け、見守り、介助を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームみどりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、傾向を把握して、一人ひとりに合わせた支援を行っている。できるかぎりトイレでの排泄や、排泄の自立を目指している。	排泄パターンの把握により誘導を行っている。排泄の自立を促すために、ベッド脇でポータブルトイレを使って頂いたり、オムツ外しに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には乳製品、野菜、果物を毎日取り入れている。また、排便チェックを行い、個々に応じて水分補給や運動を促して、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯の計画はしているが、個々の希望に合わせて、いつでも入浴できる体制をとっている。	入居前にデイサービスを利用していた利用者があり、その習慣からか、午前中に入浴を希望される方が多い。週に2回は入浴していただけるように予定を立てている。車いすの利用者も入浴出来るような特浴の機器があり、活用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごしてもらえよう、体操やレク活動を行い、夜間の安眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を確認しながら、準備に関わっている。看護師資格を持つ職員が責任を持ち、管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意分野を把握し、家事や畑仕事、歌やゲーム等、楽しみや達成感を味わえるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望にそって、できるだけ散歩や買い物、ドライブへ出かけている。また、家族や地域の方々に協力して頂き、帰宅や、外出を行っている。	果物やお菓子、衣類等の購入希望によって買い物に出かけたり、帰宅願望のある方の気分転換にドライブを活用したりしている。事業所前の畑に出かけ、地域の方たちと一緒に作業を行ったり、地域の方に付き添ってもらい、文化祭に出かけたりしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームみどりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはお金を管理して頂いている。管理が難しくなった方でも、手元に置くことで安心される場合には、家族に協力頂き、所持している。買い物の際は、なるべく本人が支払できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時、いつでも使用して頂いている。携帯電話をお持ちの方もいる。手紙も希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は床暖房・エアコン・加湿器で温度と湿度を保っている。夏は簾や扇風機を設置し、必要時はエアコンを使用している。自然の花を飾る等して季節感を採り入れている。	事業所前の畑では野菜の冬囲いが行われ、玄関には干し柿が吊るされ、初冬が感じられる。事業所の中に入ると、とても暖かく加湿も行われている。利用者の作った作品が飾られ、清潔な明るい空間が広がっている。利用者は思い思いに、お気に入りの場所で過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、外を見ることのできる玄関付近に椅子を設置し、独りの時間を持ったり、気の合った人と過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族にご協力頂き、馴染みの物を使う、写真等を飾る等して、落ち着いた環境作りを行っている。	テレビや戸棚、写真など希望の品が持ち込まれている。今後も家族に働きかけて、馴染みの物を増やしていきたいと考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリー構造になっている。また、必要時は福祉用具を活用し、安全で自立した生活を送れるよう支援している。		